

ユーザーモードコンポーネント

Presented by: **Thomas Maul**



概要

リストボックスを活用した汎用的な入出力画面を提供するコンポーネントです。テクニカルノート09-21として発表されたものを大幅に改良しました。**v16以降**で動作します。**4D View Pro**のライセンスが利用できるときには、自動的に4D View Proモードのリストボックスを使用します。開発者・管理者向けのツールとしての利用が想定されています。

ユーザーモードの意義

アプリケーションやビジネスのロジックに制約されることなく、直接データにアクセスができるユーザーモードは、間違いを修正したり、管理者だけに許可されている特定の業務（集計・読み込み・書き出しなど）を実行したりするのに便利なツールです。適正なアクセス制限を設けることにより、一部の機能は一般ユーザーにも提供できるかもしれません。

v11以降、ユーザーモードは**デザインモードに統合**されました。並び替え・クエリ・読み込み・書き出し・クイックレポート・ラベルエディターなどのツールは、引き続きコマンド経由で呼び出すことができます。このコンポーネントは、そのようなコマンド、およびリストボックスなどの仕組みを活用し、どんなデータベースであっても簡単にユーザーモードが追加できるように作られました。

想定されている用途は、わざわざユーザーインターフェースを作成するほどでもない特殊なデータベース業務・**データの書き換えや入れ替え・設定の変更などの管理者業務**です。データベースに直接アクセスができるユーザーモードをそのままユーザーに提供するのは、あまり賢明ではないでしょう。

インストール

コンポーネントをインストールし、共有メソッドを実行するだけで利用することができます。リスト画面と詳細画面が統合されたモダンなデザインであり、**ピクチャ・オブジェクト・スタイル付きテキスト・BLOBフィールドにも対応**しています。ピクチャはコンテキストメニューから、BLOBはBase64エンコーディングされたデータとして読み書きすることができます。コードエディターツールを利用すれば、コンパイルされたデータベースでも複数行のメソッドを実行することができます。これは、現場で問題に対処しなければならないときに有用です。

コマンド

UserMode_Show (tableNumber;allowExecution)

パラメーター	タイプ	説明
tableNumber	LONGINT	テーブル番号
allowExecution	BOOLEAN	コード実行を許可する

UserMode_Forms (inputFormNames)

パラメーター	タイプ	説明
inputFormNames	ARRAY POINTER<TEXT>	テーブル毎の入力フォーム名

リスト上のレコードをダブルクリックしたときに表示される入力フォームを指定します。ユーザーモードの目的を考えれば、通常はメソッドが記述されていないシンプルなフォームを使用したいと思うはずです。なお、"**UserMode**"という名称のフォームが存在すれば、デフォルトでそれが使用されます。空の文字列が渡された場合、リストをダブルクリックしてもフォームが表示されません。テーブル数（Get last table number）と同じサイズの配列を渡してください。

UserMode_Access (featureName;allowFeature)

パラメーター	タイプ	説明
featureName	TEXT	許可する行為の種別
allowFeature	ARRAY POINTER<BOOLEAN>	テーブル毎の設定

コンポーネント上で実行できる操作を決めます。カレントユーザーのアクセス権に基づいて設定すると良いでしょう。コントロールできる行為の種別は、下記のとおりです。

Show	テーブルの表示
Modify	レコードの更新（リスト画面あるいは詳細画面）
New	レコードの追加
Delete	カレントセレクションの削除
Report	クイックレポート
Import	読み込み
Export	書き出し
Execute	コードの実行・フォーミュラで更新